

原地区へ友愛訪問

3月3日、山都町老人クラブ矢部支部女性部の8名が原地区へ友愛訪問されました。

これは、熊本地震により町内で最も被害の大きかった原地区の皆さんへ何かできることはないかと話し合い、生活必需品を支援できればとなり訪問することになりました。

「熊本地震からやがて一年が経とうとしています。女性部として何か少しでもお見舞いできないかとなり、生活必需品を少しではありますが受け取っていただければ」と女性部長の和田さんは話されました。



生活必需品は20世帯にトイレトーパー、さばやパイナップルの缶詰、砂糖が各種1つずつ、廃油を利用した女性部手作りの石けんが2個ずつ用意されました。

「手作りの石けんは泡立ちもよく女性部の皆さんも愛用しているもので洗濯等に使用していただければ嬉しい」と話されました。

原老人クラブ会長である古閑さんは「今までたくさんの方から支援をいただき大変感謝しています。皆さんの温かい気持ちを受け取りこれからも頑張っていきたい」と感謝を述べられました。



(左) 原老人クラブ古賀会長、(右) 女性部和田部長

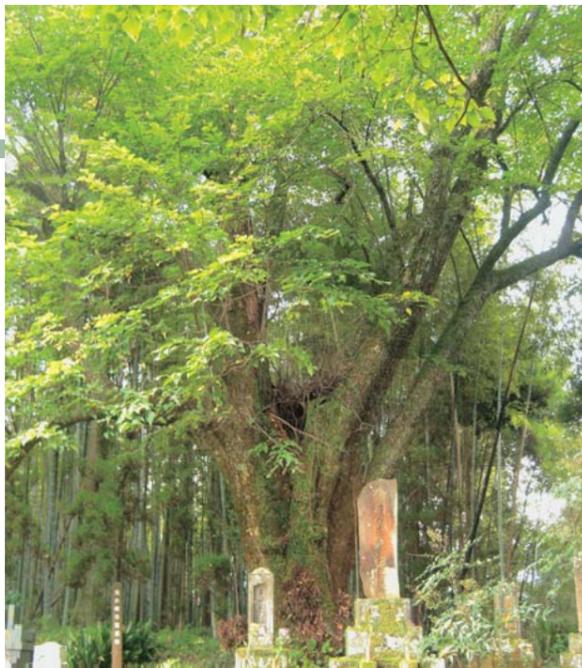
山都町の名木【第17回】 もとおみね ぼだいじゅ 元小峰の菩提樹

〔樹高〕約20m 〔幹囲〕約5m
〔樹種〕シナノキ科
〔指定等〕山都町天然記念物(昭和39年6月30日)

菩提樹は、中国中部・南部が原産で、日本には古くから導入され、寺院や神社などに多く植えられています。この「菩提樹」という名称から、仏教における第一の聖樹で釈迦が悟りを開いた地に植えられていた樹を連想されますが、本来の菩提樹は、インド・スリランカ原産であるクワ科のインドボダイジュ(テンジクボダイジュ)という常緑高木で、日本の菩提樹とは異なります。インドから熱帯アジアの地域においては、本来のインドボダイジュが聖樹とされていますが、中国や日本では、インドボダイジュに葉の形が少し似ているシナノキ科の落葉高木を「菩提樹」と命名し、同様に信仰しています。

「元小峰の菩提樹」は、倉岡家の墓地に植えられており、元来3本あったもののうち、現在2本が残っています。この樹は、江戸時代後期の天明年間(1781～1789)頃、小峰村の倉岡庄三郎氏が伊勢参詣の折、京都から苗を持ち帰り植樹されたものと伝わり、樹齢は約230年と推定されます。先祖を大切に思う気持ちが今日まで伝わってくる場所となっています。

〔参考文献〕1996 平井 信二『木の百科一解説編一』朝倉書店
2000 清和村教育委員会『清和村の自然と文化財』



新町長「梅田 穰」氏

2月26日に投開票が行われた山都町長選挙で、新人の梅田穰氏が当選されました。

投票率は、78.24%でした。また、今回は期日前投票の投票者数が3,801人となりました。投票日当日に仕事などで投票できない場合の期日前投票制度が、有権者に広く浸透してきていることがわかります。

任期は、3月6日から4年間

山都町長選挙結果

候補者別得票数(届出順)

4,369票 えとう つよし
当 6,422票 梅田 ゆたか

当日有権者数	13,946人
投票者数	10,911人
投票率	78.24%
有効投票数	10,791票
無効投票数	120票
無効投票率	1.10%

【参考】前回(H25.2.24執行)結果

14,973人(▲1,027人)
12,552人(▲1,641人)
83.83%(▲5.59ポイント)
12,404票(▲1,613票)
148票(▲28票)
1.18%(▲0.08ポイント)

梅田穰氏に当選証書を付与



当選証書を付与された梅田穰氏(左)

2月27日に役場本庁舎において町長選挙の当選証書付与式が行われ、江藤豊選挙管理委員会委員長から、当選人梅田穰氏に当選証書が手渡されました。

江藤委員長は「町政を担う山都町の代表者として、これからの活躍を期待しますとともに、山都町の更なる発展を祈念します。」と言葉を贈りました。